

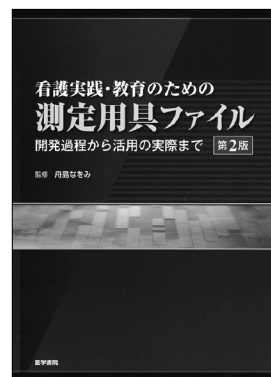
『看護実践・教育のための測定用具ファイル 開発過程から活用の実際まで 第2版』

実践や教育の効果性評価の ための尺度開発のパートナー

監修：舟島なをみ

定価：4,200 円(本体 4,000 円+税 5%)

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



看護実践および看護教育においては、その効果性を評価するための可視化は、重要な課題である。そのための研究的な取組の1つとして、尺度開発研究(方法論的研究)が挙げられる。書店で本書のタイトルを目にしたとき、やっと日本でもこのような書籍が出版されたか……と、非常に嬉しかったことを覚えている。

●新たな尺度と留意点の追加

2006年の初版に続き、今回第2版が出版された。この3年間で巻頭の序にも記されているように、新たな7尺度が追記されてさらなる充実がなされている。第1章と第2章においては、看護のアセスメントツールとして使用する際の測定用具の活用上の留意点が記されている。この内容は、尺度開発研究をこれから行おうとする研究者には必見である。つまり、使用する尺度で解決すべき看護問題のすべてが判断できるというものではないこと、適切な測定尺度を使用しないと、誤った判断に繋がることなどがわかりやすく記されている。

第3章以降では、これまでに著者らが取り組んだ測定尺度の開発過程が、重要なポイントを絞りながらわかりやすく紹介されている。尺度開発研究の開発過程でキーワードとなるのが統計的な手続きと、尺度化しようとする事項などの信頼性

と妥当性の検証である。尺度の精度を上げるためには、これらの緻密な作業手続きが重要である。本書では、繰り返しその重要性が対象となる尺度に合わせて解説されている。このような内容を満たす書籍は、日本においてはこれまでになかったものである。その意味では研究を学ぶ初学者においても手本となる内容である。

この書籍のマイナス点を敢えて挙げるならば、統計的なサンプル数を十分には満たせなかったことであろうか。しかしその点を十分にわかったうえで、著者たちはさらなる尺度の信頼性や妥当性を上げる努力を今後も続けていく意気込みは十分に感じ取れる。

●重要な使用許諾の手続き

尺度開発研究を進めるなかでは、日本では、とく疎かになっていた使用許諾の手続きについても、本書ではわかりやすく言及している。このような形で開発者のオリジナリティは今後保証されるべきであろう。多くの心理学分野から生まれた尺度が特許申請され、保護されていることを考えると、看護学における尺度開発も、このような認識を十分にもつべきなのであろう。

以上、本書は、看護系大学院で学んでほしい内容を十分満たしている教科書として、ぜひとも手元に置いておきたい一冊である。